



画像提供 / 大豊協同組合

CLOSE UP VOICE

大豊協同組合
理事長 黒野 有一郎 さん

商環境の整備や自由な試みにより、まちなかに活気を

用水路上に建造された世にも珍しい商店街は、豊橋ビル・大豊ビル・大手ビルの3棟からなり、「水上ビル」の愛称で親しまれ、来年60周年を迎える。次々とユニークな仕掛けを打ち、まちなかの古くて新しいランドマークとして豊橋を盛り上げてきた大豊商店街は、取り巻く課題と向き合いながら商店街の活性化を狙う。大豊協同組合理事長を務める一級建築士事務所 建築クロノ代表の黒野氏に商店街の再生に向けた取り組みを伺った。

建築物と立地を活かしたイベントで地域活の活性化を図る

——大豊商店街(大豊協同組合)の歴史の歩みを教えてください。

黒野 ▼商店街の始まりは、戦後の復興期まで遡ります。1945年の豊橋空襲により、豊橋市中心部は、焼け野原となり、駅周辺にはいくつもの「闇市」が出現しました。戦後復興が進むにつれ、闇市の取締りや組織化が推進されるなか、1948

災や美観の観点から問題視されるようになり、行政・議会・商工会議所・組合が議論を重ね、紆余曲折を経ながらも移転へと進んでいきました。とは言え戦後20年を経た市街地に移転先となる代替地はなく、途方に暮れる中、市内を流れる牟呂用水の水路上に建築するという苦肉の策に至りました。こうして1964年に公的な水路上の建築物として、全国に例のない新生「大豊商店街」が誕生したのです。

現在、大豊協同組合は、大豊ビルの家主52名の組合員で構成されており、僕は2014年から理事長に就任し、今年度で5期10年目となります。来年は60周年の節目の年になりますので、日頃応援していただいている皆様や商店街を支えてきた先達方に感謝と恩返しできればと考えています。

——水上ビルではユニークな取り組みやイベントを実施していますね。黒野 ▼日本の多くの地方都市は、2000年頃が底だったように感じます。豊橋市も同様で、駅前の西武百貨店の撤退が決定した時期でした。このニュースに触れた地元の方の若者が、「このまま豊橋が衰退するのではないか」という危機感を抱くと同時に「何かしなければ」という鬱陶気になりました。当時、新

年に前身である「豊橋市民市場協同組合」が設立されました。初代理事長の山本岩次郎氏を中心に組合員が協力し合って集めた日掛貯金と銀行からの借入資金で、駅前大通の小学校跡地(現emCAMPUS [FAST])を購入し、1950年に「だいほうマーケット」が誕生しました。「だいほう(大豊)」には、「大きな豊橋をめざして」という願いが込められています。しかし、当時の建物は木造のバラックのようなもので、防

潟県・越後妻有の「大地の芸術祭」や瀬戸内の「ART STATION」に代表されるような芸術と文化を活かした地域づくりに注目が集まり、触発された若者が中心となってアートで地域づくりをしようという動き出したのが「よはし都市型アートイベント seone」開催のきっかけでした。始めた頃は、アートによる地域づくりになかなか理解が得られず苦勞したと聞きます。

しかし、この活動によって国内最大級の現代アートの祭典「あいちトリエンナーレ」の招致に成功することができ、また人とのつながりを形成できたことは大きな成果でした。イベントで知り合ったアートのキュレーターやディレクターとは、今でも親交があり、その後のイベント開催時にも尽力していただいています。例えば、舞台映像作家・山田晋平氏が大豊ビルB2棟内に立ち上げた「みずのうえ文化センター」では昨年の冬から毎月、アーティストを招き、ワークショップや講演会を開催しています。ここでは美術館やPLAT、まちなか図書館の担当者が集まり、各施設だけでは実現が難しかったイベントを連携して開催しようという取り組みがあります。これらのことから今年20年目となるseoneの功績は大きいと考えます。毎年6月末に開催しているイベン

Keisuke Nishikawa

INTERVIEW



大豊協同組合
豊橋市駅前大通三丁目118番地先
0532-56-0170 (建築クロノ)

「雨の日商店街」は、偶然の産物と言えます。僕が理事長に就任した翌年は、大豊商店街50周年にあたり、イベントの一環として「大豊ジャーナル」というフリーペーパーを創刊しました。この年に4回発行する予定でしたが、6月の号に掲載するネタがなく、記事を書くために企画したのが、「雨の日商店街」でした。このイベントでは、当時の悩みの種であったシャッター街になりつつある商店街の空き店舗を利用して、アンティークの店を招き、期間限定で商売してもらいました。梅雨時のため、他のイベントが開催しづらいことも影響し、多くの参加店舗が集まってくれました。空き店舗をまるまる利用できるため、参加事業者は工夫を凝らした、刺さる、店舗づくりができ、来店されたお客様からの評判も良く、商店街の人気イベントとなりました。

ここでは我々組合側も予期しなかったメリットがありました。1つは、長年閉め切っていた店舗を開け、綺麗に片付けることで出店に興味のある事業者が内覧できるようになったことです。また、店舗の所有者である組合員は大家の体験を、参加事業者は店子の体験ができ、両者ともが店舗運営を具体的に想定するマッチングの機会ができました。組合員は、貸し手側の意識に努めていきます。

また、各商店街及び豊橋発展会連盟としては、豊橋公園内に新アリーナが建設された場合、いかにして観客を商店街へ誘導できるかが課題です。今後、ホームタウン商店街として、施策を展開することで商店街を選んで通っていただけるように努めていきます。

——貴組合が描く将来のビジョンを教えてください。

黒野 ▼ 一般的にコンクリート造の建物の寿命は、80年と言われています。そこで大豊商店街50周年の際、30年先の未来では、あまりに先過ぎて自分の人生と重ねて考えられない

が芽生え、賃貸事業に積極的に取り組むようになり、一方、参加事業者は実際に店舗を構える前のデモ体験ができたため、そのまま入居してくれる事業者もいました。嬉しいことに現在、貸出できる店舗スペースは全て埋まっています。

組織と環境を改善しつつ、20年後とその先を見つめる

——現在、貴組合が直面している課題を教えてください。

黒野 ▼ 組合の定款の改訂と店舗による商環境の整備です。50年以上前に作成された定款のため、現状に沿わない部分もあります。例えば、現在は店舗の所有者しか組合員になれず、店子には入組資格がありませんので、組合への入組規定も見直していきたいと考えています。「水上ビルの朝市」のような商店街にまつわるイベントは、店子が主体となって運営に携わってもらいたいと思いますので、ぜひ改訂に取り組みたいと思っています。

また私は、市内の商店街からなる豊橋発展会連盟の一員として商店街における商環境の整備を提案しています。具体的には、アーケードの維持・メンテナンスや歩道の清掃活動、植樹など、昔当たり前のように各店舗が行っていた気持ちよくお買

め、敢えて10年の余裕を持たせ、「20年生き延びる宣言」を打ち出しました。来年に迎える60周年にあたっては「20年生き延びる宣言」を発表する予定です。大家にとっては、いつか建物の終わりが来て、生活基盤を移さなければならなくなること

を理解していただく必要があります。そして店子に対しては、この先20年は心配はいらないので、安心して投資してしっかり商売していただきたいアピールをするためです。

大豊商店街が、どのような方向に向かっているか現段階ではわかりません。例えば「産業遺産として残すべき」という意見が出て文化財として残るかもしれませんし、テクノロジーの革新により耐久性を安価に延ばすことが可能になるかもしれません。我々は、メンテナンスをすることで建物を元気な状態に維持させ、できる限り選択肢を持つようにし、決断のタイミングまで最善の選択ができるようにしておきたいです。

これからも一層、課題解決に取り組む、より多くの人々が参加できる組織づくりと快適な商環境整備に努め、楽しいことがおこる商店街を続けていきたいと思っています。

——ホームタウン商店街協定とはどのような内容でしょうか。

黒野 ▼ 中部経済産業局の「スポーツ★きらり商店街」事業に共同参加したことをきっかけに、昨年三遠ネオフェニックスとホームタウン商店街

瓦敷きになったり、街灯がLED化されるなど徐々に商店街界隈の美化が進められてきました。本年度には、ホームタウン商店街協定を締結した三遠ネオフェニックスの協力のもと、クラウドファンディングを利用したアーケードのメンテナンスなどを構想しています。

より多くの人々が参加できる組織づくりと商環境整備に努め、楽しいことがおこる商店街を続けていきたい。

CROWDFUNDING

老朽化したアーケードを直すため、クラウドファンディングをスタート予定

大豊ビルが建造された当初から、行き交う人々を雨や強い日差しから守ってきたアーケード。大規模修繕を実施したのが30年前とあって、鉄骨のサビや腐食が目立ち、ところどころで雨漏りも見受けられるように。まちなかを訪れる人が気持ちよくショッピングが楽しめる商環境を整えるべく、クラウドファンディングでアーケード改修事業をスタートさせる。募った改修費用の返礼品は、ホーム商店街として連携する三遠ネオフェニックスとのコラボによって制作するオリジナルグッズとなる予定。安心・安全かつ新たな装いの商環境に期待が高まっている。



大豊ビル屋上に設けたパブリックビューイング会場から三遠ネオフェニックスを応援するプースター画像提供 / 大豊協同組合

い物ができる環境づくりを復活させることです。

郊外にある大型商業施設は、空調による快適な温度や天候に影響されない環境を確保し、通路には人気がお店が並び、歩き疲れたら休憩する場所もあります。これは、店舗前を綺麗に清掃し、植樹して木陰を設けたり、お客様が休める椅子を提供したりした昔の商店街の姿です。我々も怠ってしまっていたところがありますので、一致団結して改善に取り組みたいと思っています。

大豊商店街においては、豊橋市のストリートデザイン事業で足元が煉

三遠ネオフェニックスとホームタウン商店街

互敷きになったり、街灯がLED化されるなど徐々に商店街界隈の美化が進められてきました。本年度には、ホームタウン商店街協定を締結した三遠ネオフェニックスの協力のもと、クラウドファンディングを利用したアーケードのメンテナンスなどを構想しています。

